



昨年の10月11日は、台風19号が接近、風雨が激しいとの予報があり、廊下の空気口より、浸水しないようにと砂袋を持ち上げたたん、腰を痛め転倒し救急車で搬送された。レントゲン撮影の結果、腰部の圧迫骨折と診断され即入院すべきだが、病室の空気がないため家で安静に過ごすようにと指示があった。

毎日が退屈なために、10数年前東公民館にて、梅本先生より水墨画を指導していただいた事を思い出しながら、久しぶりにお手本を参考に冬景色の水墨画を描いてみました。



八女市本村 大石 幸代

### 福岡県6次化商品コンクール奨励賞受賞!!

八女農業高等学校

1月27日(月)ヒルトン福岡シーホークホテルで令和元年度ふくおか「農と商工の自慢の逸品」展示商談会、福岡県6次化商品コンクール表彰式が行われました。本校生物利用科から出品した「たけのこピクルス」が見事、奨励賞を獲得し、服部誠太郎福岡県副知事より表彰を受け激励のことばをいただきました。「たけのこピクルス」は、県内で生産量トップの八女産たけのこを使用し、地域の活性化に少しでも役立つ商品になればとの思いで、みんなで意見を出し合い、開発や瓶詰め、カット作業などを行った商品です。

生徒たちがプロジェクト学習の中で1年半商品の開発をし、「道の駅たちばな」と連携して試食会を重ねて作り上げました。製造販売は「道の駅たちばな」さんをお願いしています。

ピクルスは、食べやすいように柔らかい穂先を使用しています。香辛料や着色料を一切使用せず、和風だしに漬け込み、お子様からお年寄りまで親しみやすい商品になっています。



#### 3月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

6日(金)、17日(火)、24日(火)、27日(金)、31日(火)  
販売時間は、10時30分~12時30分です。  
多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

### 今の一冊

#### 『夢をかなえるゾウ』

水野敬也／著 飛鳥新社 2007年

自分を変えたいけど変わらない。なんとなく毎日を過ごしてる。なんだか満たされない。

そんなときこそまず読んでほしい1冊です。

この本に出てくる関西弁で喋る神様ガネーシャはとても面白く、厳しくもありユニークなキャラクターですが、ガネーシャの言葉で時にハッとさせられるようなものもあり、自分自身を見つめ直すきっかけになる本でもあると思います。自分に当てはめて読んでみてもいいかもしれません。

小説版の自己啓発本で、とても読みやすく、何度読んでも気付きがある本です。

広川町立図書館 司書 大谷 真美子



### ◆3月のイベント案内◆

- 筑後市立図書館 ☎0942-51-7200
  - おとなのためのおはなし会  
3月18日(水) 14:00~  
絵本の読み語り、紙芝居、本の朗読など
  - 図書館DEミニシアター  
3月24日(火)・25日(水)・26日(木) 各14:30~  
おとな向け、子ども向けの上映会を開催
- 広川町立図書館 ☎0943-32-1163
  - 読書への階段  
3月3日(火) 14:00~  
2月生まれの3歳児と保護者を対象にしたプレゼントと読み聞かせ
  - 定例お話し会  
3月7日(土)・15日(日) 10:30~  
ボランティアグループきらら・たまてばこによるお話し会
  - かつちんこ  
3月18日(水) 10:30~  
絵本コンシェルジュによる赤ちゃんと保護者への読み聞かせ
- サザンクス筑後 ☎0942-54-1200
  - 震災と文化  
3月15日(日) 13:00開演  
「災害続きの日本で、今、アートを考える」  
近年の大規模災害時、アートの側面でどんな動きが起きたのか。また、公共ホールが担うべき

き新たな役割について過去の事例を基に考えます。  
※参加費無料

- 震災と文化  
3月16日(月) 10:00開演  
「災害時施設運営管理者研修(1種)」  
公共施設での避難者対応のあり方を学ぶプログラムです。大規模災害時の施設運営全般の知識と、初動から長期滞在までフェーズごとに避難者への対応を学びます。  
※受講料 8,000円(テキスト代込み)
- こどものためのえんげきひろば定期公演  
「さかさま」  
3月29日(日) 14:00開演  
自分が「正しい」と思っていることはほかの誰かにとっても「正しい」の? 一大人気絵本「さかさま」を舞台化。  
※入場料 500円
- 九州芸文館 ☎0942-52-6435
- 九州芸文館セレクト展(筑後市美術協会会員展)  
3月10日(火)~3月15日(日)  
※入場無料
- 九州芸文館アカデミー全作品展  
3月21日(土)~3月29日(日)  
※入場無料

### クラッシー文芸

#### ■紫苑句会

持ち主の集め寄せたる落椿  
勤行や御堂の風鐸寒に鳴る  
長老のだみ声飛ばしどんど守る  
かばかりに触るれば柔き冬芽かな  
松延みさと  
牛島 景子  
堤 多鶴子

鬼面よりはげしく洩るる息白し  
中川原篤子  
井上トシ子

#### ■ひろかわ俳句会

細波の光にまぎる鴨の陣  
水本 辰次  
原口あつ美  
初春やひと睨みする写楽の絵  
かなしみに寄り添ふごとく野水仙

旅の宿朝餉にすする寒卵  
柴田 眞理  
大つぶの寒卵あり峠茶屋  
野中 勝美  
故郷の見慣れし山も初景色  
山崎 陽子  
追伸はひ孫誕生年賀状  
水本 艶子  
神木に耳を当て聞く初詣  
美座 時朗  
寒卵夫がすすめる朝の膳  
結東 節子  
寒卵落とし至福の朝餉かな  
青木佳代子  
朝餉時寒卵一つすすりけり  
酒井 朝美  
ヘルニアの義母の朝どり寒卵  
一瀬砂智子  
小屋の隅わらに産みたて寒卵  
渡辺 弘子

#### ■立花短歌会

八女の酒(箱入り娘)を供につれ行く先々の  
友に振舞う  
鶴 隆治郎  
あら玉の年の初めのためたさよ五臓六腑にと  
そ酒しみる  
松尾ミサキ  
昨今のイブの酒場は閑古鳥ケーキを囲む家庭  
がふえて  
橋本 泰州  
晴れやかに令和の御代の初日の出層蘇酌む席  
にさしこみてくる  
井上 精  
七草は三十一文字におさまりぬ古人の知恵の  
豊かさ  
中島 睦美  
枯れ草のしたに芽を出す雑草のやわらかき葉  
の春を告げおり  
櫻木 敦子  
新年は猪口で日本酒の三ヶ日駅伝観つうた  
た寝しつう  
田中たつじ  
野菜より草茂りゆく菜園よ農はいつでも草と  
の戦い  
野中 裕政  
「あと一本」いつまで続くこの声か酒飲む人  
の相手は難儀  
樋口 愛子  
友来ればもてなす想いで酒出して将棋さして  
た父の時代は  
鶴 邦子